

### 3 各教科等における道徳教育・別業との関連

#### (1) 実践例 美術科における道徳教育～教科の本質との関連から～

平成 28 年 7 月 1 日 伊豆日日新聞朝刊より



ロダンの「カレーの市民」のポーズをまねる生徒＝伊豆の国市の大仁中

## ロダンから道徳学ぶ

文科省指定  
研究授業

彫像まねて意見交換

伊豆の国・大仁中

伊豆の国市立大仁中 研究授業が行われた。に学び、問いを生む授  
（相馬美樹子校長、生徒 文部科学省の指定研 業を目的に、教科の特  
376人）で29日、道徳 究授業の一つ。本年度 質を生かした道徳教育  
教育と関連した美術の までの2年間、主体的 に取り組んでいる。

## 美術科指導案より

### ～美術科と道徳との関連～

1885年、当時のカレー市長は、町に500年以上昔から伝わる伝説的英雄の記念碑をロダンに依頼しました。郷土を愛し、命がけで郷土を救った先人に対する尊敬の念や、そのおかげで今の自分たちが存在できていることへの感謝の気持ちなど、今後の郷土の発展のために引き継いでいこうとする思いは、「郷土愛」として「カレーの市民」を誕生させました。そして、この結末には続きがあります。人質を要求したイギリス王エドワード3世は、死を覚悟して敵陣に出向いた6人の姿に心を打たれ、処刑をとりやめたのです。郷土を愛する強い思いには、人の心さえ動かす大きな力があることがわかります。このエピソードは、イギリス人の寛大さと、フランス人の勇敢さ、犠牲的精神を象徴する出来事として後世に伝えられています。みなさんは、郷土の先人や高齢者に感謝したり、郷土の発展のために自分が何ができるか考えたりしたことはありませんか。また、「カレーの市民」を思い出したら、郷土を愛する大切さについて自分なりに考えてみてください。

（郷土愛：地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。）

今回は1年2組の美術の授業（担当・城所裕教諭）を、県立美術館の教育普及担当職員3人の協力で行った。教材は、英・仏「百年戦争」（1337～1453年）の際の出来事に基づくロダンの彫像「カレーの市民」。多くの市民の命を救うため、自ら人質となつた6人の郷土愛あふれる行動を説明。6人をモデルにした「カレーの市民」をパネルで示し、グループごとにポーズを再現した。その後、ポーズは「まねしやすかったか」「まねしにくかったか」、表情は「穏やかだったか」「激しかったか」を話し合った。

授業は静東教育事務所 所長の総括指導主事ら3人と、同校の全教員が見学した。指定研究の成果を、11月2日の公開授業で発表する。

